

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

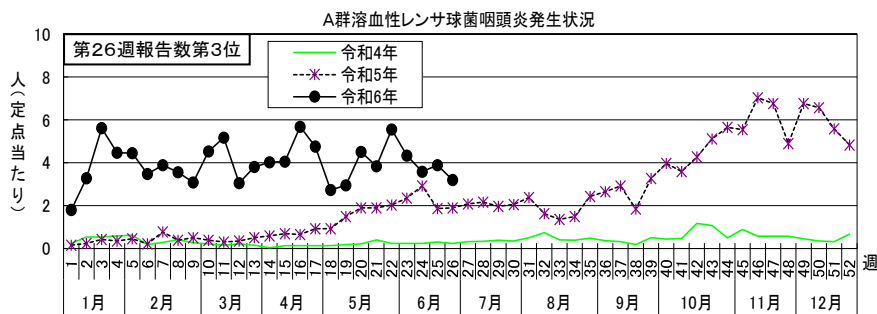
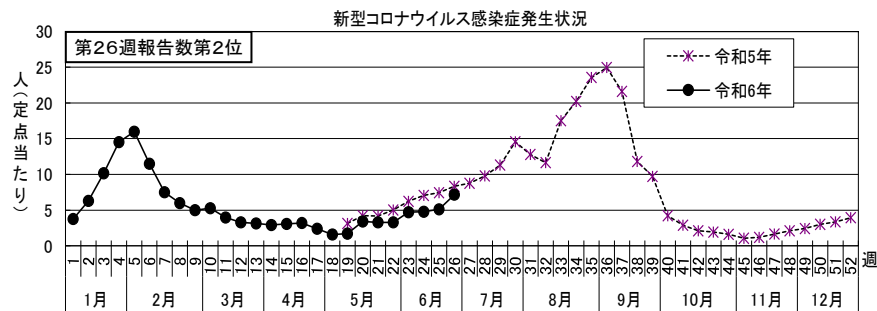
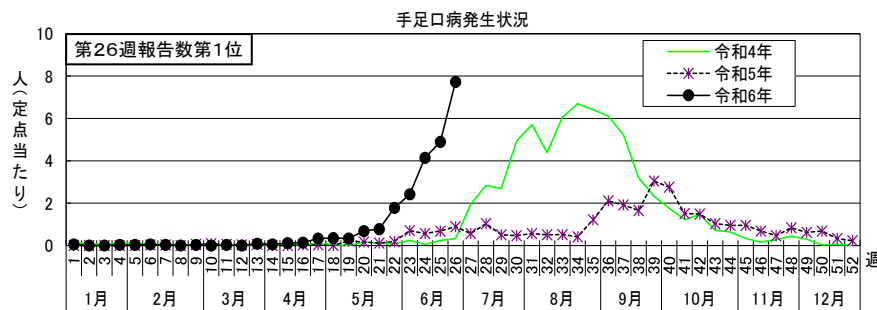
令和6年6月24日（月）～令和6年6月30日（日）〔令和6年第26週〕の感染症発生状況

第26週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）新型コロナウイルス感染症 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

手足口病の定点当たり患者報告数は7.72人と前週（4.89人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は7.17人と前週（5.10人）から増加しました。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.19人と前週（3.89人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。

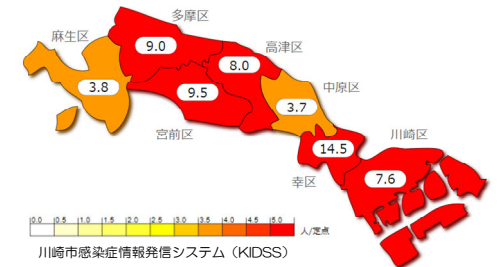


手足口病の流行発生警報が発令されました！

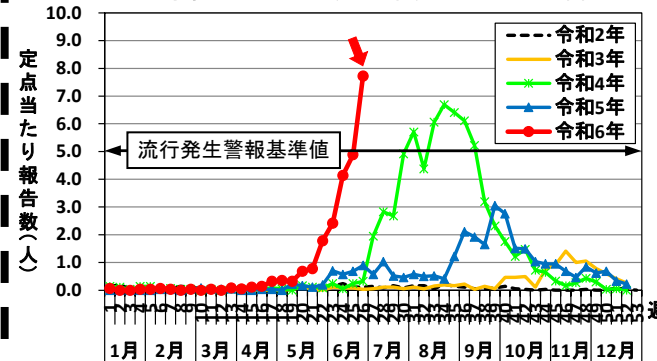
川崎市における令和6年第26週（6月24日～6月30日）の手足口病の患者報告数は定点当たり7.72人となり、流行発生警報基準値（定点当たり5.00人）を超えました。区別では、幸区が定点当たり14.50人と最も多く、次いで宮前区が9.50人となっています。また、年齢階級別では、3歳以下の乳幼児の報告が82.4%と最多でした。

手足口病は、主に手足や口の中に発しんが出現する疾患で、数日で軽快することがほとんどですが、まれに髄膜炎等を合併する場合があります。保育園等では集団感染を起こすこともあるため、予防対策を徹底し、感染拡大を防ぎましょう。

川崎市における手足口病分布マップ（第26週）



川崎市における手足口病発生状況（5年間）



手足口病の予防対策

流水と石けんで十分に手を洗う。



おむつ交換の際には排泄物を適切に処理する。



タオルの共用は避ける。

